

JAきたみらい

あけびとま かなた

迎春

2012



vol.108

1

表紙の紹介は2ページをご覧ください



常呂川

季節の薫り



氷点下18℃まで冷えこんだ朝。陽射しを浴び、穏やかに流れる常呂川。水面から、冷え切った水蒸気が上がり、周りの木々は水蒸気が付着し真っ白だ。

常呂川は、オホーツク海側で最大の一級河川だ。置戸町西部付近にある三国山に源を発し、鹿の子ダムを経由して北見市常呂町でオホーツク海に注ぎ、その延長は120kmにもなる。その間、無加川、訓子府川など10の支流とも合流している。

第一次産業の農業は、自然相手の産業といっても過言ではない。特に水は、作物を育てる上で欠かせない。そして、飲料水を始めとした日常生活や各工場などでも使用され、地域経済を支えている。

新しい年も、穏やかな流れとともに温かく私たちの暮らしを見守り、育ててくれることを願う。

【写真は2011.12.19・午前9時17分、北見市立端野小学校付近の中央橋から撮影】

新年号の

表紙紹介

4年振りに表紙を飾ったのは、事務所横の吹き抜け倉庫の屋根から姿を表した日の出の写真です。穏やかな日の出がセンター事務所を包むと同時に、1,245戸の組合員宅と畑なども優しく包みましました。

2012年は、穏やかな天候に恵まれ、豊穰の秋を笑顔で迎えられることを願いながら、シャッターを切りました。

さて、平成21年度の第6回通常総代会で承認された中期経営計画に基づき、戦略構想による旧北見支所をセンター事務所としてスタートし、全組合員の「拠り所」として4年目に入ろうとしています。

昨年は、降雪、長雨、台風などにより畑作物、農地などで大きな被害を受けました。そして、日本国民を脅かし、深い悲しみに陥れた3月11日の「東日本大震災」。改めて、自然の脅威と人間の無力さを知らされた1年でもありました。

また突如、再浮上した「TPP交渉参加問題」。センター事務所正面入り口にも、「TPP交渉参加反対」と記した垂れ幕を設置していますが、組合員、役職員、JAグループや関係機関が一丸となって打破しなければならない大きな課題です。みんなで頑張りましょう！



(2011.12.19・午前7時26分撮影)



JAきたみらい概要

(平成23年12月17日現在)

・組合員数(正)	1,838人
・組合員数(准)	5,957人
・組合員戸数(正)	1,245戸
・貯金	105,586百万円
・貸出金	18,081百万円
・出資金	5,194百万円

もくじ CONTENTS

○ JA からのお知らせ……………	20
・「スノーマーチ」発売開始	
・全道共進会ランドチャンピオン祝賀会	
・宮城県丸森町に牧草ロール支援	
・救急車寄贈 JA 共済連北海道本部	
・食育パンフレット作成	
○ 青年女性ネットワーク……………	14
・全道 JA 青年部大会	
・海外酪農業視察研修	
・きたみらい酪農青年部	
・外郭3団体合同視察研修	
○ JA きたみらい ホットライン東西南北……………	10
○ 新春特集 「上を向いて歩こう」……… 夢と希望を抱いて……………	6
○ 組合長から新年のご挨拶……… 「組合員のために」……… 地域に親しまれる JA に……………	4
○ 表紙紹介……………	2
○ 季節の薫り……………	2

組合員のために 地域に親しまれるJAに



きたみらい農業協同組合

代表理事組合長

西川 孝 範

忘れてはいけない 東日本大震災

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様を始め、ご家族の皆様には、健やかに平成24年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

皆様には、JAきたみらい事業運営に對

し日頃より深いご理解とご協力を賜り、厚く感謝とお礼を申し上げます次第であります。

昨年、3月11日、我が国の観測史上最大（マグニチュード9・0、最大震度7）

の東北地方太平洋沖地震と、それに伴う津

波によって引き起こされた東日本大震災は、被災地の様子を伝える映像やニュースを目にするたび、言葉を失うばかりでした。

被災地の皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に、改めて深くお悔やみ申し上げます。

かつてない大地震に見舞われた緊急時においても、気丈に現状に向き合い、周りの方々と支え合いながら心をひとつにし、困難に立ち向かう被災地の方々の姿に胸をうたれ、同じ日本に住む者として誇りに思い、「何かお役に立てる事をしたい」という強い思いから、支援物資と義援金を被災地に届けたところがあります。ご協力いただきました組合員の皆様には、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の営農を振り返ってみますと、雪解けは順調に進みましたが、4月から5

月にかけて天候不順が続き、また気温も低く、多くの作物の移植が大幅に遅れたスタートになりました。しかし、6月は一転して好天に恵まれ、作物の生育に回復が見られましたが、6月10日、11日発生の降雹と集中豪雨により、3,135畝が被害を受け、玉葱を中心に約430畝の廃耕を余儀なくされ、甚大な被害となりました。被災された組合員の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

7月は、記録的な猛暑と長雨の影響を受け、高温・多雨で推移しました。その後、8月・9月に集中豪雨、また9月には、台風により圃場が乾かず収穫時の遅れにつながりました。

この様な中、農産物においては麦、てん菜を筆頭に大幅な減収となりましたが、水稻は全国・全道的に作況指数が100を上回り、JAきたみらい地域では121となりました。

畜産物においては、昨年の暑さによる受胎遅れで乳量の減少も予測されましたが、牧草・デントコーンの良質飼料の確保により、平年量を確保することが出来ました。

組合員皆様の適切な肥培管理とご苦労、ご努力に対し敬意を表する次第であります。東日本大震災、広範囲にわたる降雹など、自然の驚異と備えの大切さを改めて考えさせられる1年となりました。

TPP交渉参加は 国内農業の崩壊

さて、農業・農協を取り巻く情勢は、政府が農政の根底を覆し、突然TPP（環太平洋パートナーシップ協定）への参加表明するなど、国内農業崩壊は勿論のこと、地域経済に及ぼす影響は計り知れません。

国民に情報開示されないままに、国家と国民の将来を左右する外交交渉が拙速に行われることは、断固認めるわけにはいきません。TPP交渉参加の反対に向けて、消費者や地域住民の皆さんと共に情報を発信

して参ります。

併せて、我が国の行政刷新の名の下に農業関係予算が大幅に削減されており、再生産を可能とする農業所得の確保と農業者が意欲を持てる農業経営の確立に向け、系統一丸となつて予算の確保と提案要請運動を展開して参ります。

出向く営農を 基本姿勢に

この様な環境化の下、第3次農業振興方策並びに中期経営計画の計画を樹立した時とは政策、経済面でも大きく環境変化しておりますので、平成25年度を目標とした農業所得1,100万円確保に向け、見直しを図って参ります。

営農支援機能の特化のための出向く営農を基本姿勢に、「組合員とともに、組合員による、組合員のため」を原点として、「魅力あるJA・選ばれるJA」、「地域に貢献で

きるJA」であり続けることに機能の総力を結集し、積極的に取り組んで参ります。

組合員皆様の益々のご健勝と豊穰の秋を迎えられますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。

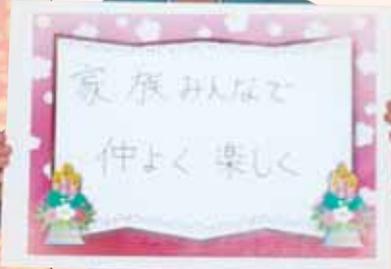
上常呂地区・常川

吉田 優妃奈さん
(2000年生まれ)

新年明けましておめでとう
ございます。今年は
元気で楽しく過ごすため
に、風邪を引かない強い
体になりたいです。その
ためには、食事の栄養バラ
ンスやビタミンも考え、
好き嫌いせず良く食べ、

早寝早起きを心がけて体調管理をしていきます。

あとはテストで連続満点を取り、バレーボールも上手になりたいけど、家族みんなで仲良く楽しく1日1日を過ごせたら良いなと思います。



訓子府地区・柏丘

牧嶋 春佳さん
(2000年生まれ)

今年は小学校の最上級生になります。私は3年生の時から「バレーボール少年団」や「ヒップホップダンス」、「習字」を続けています。月曜から土曜日まで、練習でいっぱいですが、友だちと練習したりお話しをしたりして、とても楽しいです。

バレーボールの守備は今、バックですが、新チームではアタッカーになり、強いスパイクを打ってみたいです。

そのためにも、練習をたくさん積み重ね、アタッカーになって地区大会の優勝、そして全道大会出場をめざして頑張りたいと思います。

勉強では算数が苦手なので、予習・復習を必ずして少しでも成績を上げたいと思います。



で歩こう! を抱いて

特集

今年は辰年です。新春特集として今年の「年男」「年女」の皆さんにご協力いただき、新年を迎えるにあたって新たな決意と、併せて夢や希望なども伺いましたのでご紹介します。

相内地区・富里

高松 桃子さん
(2000年生まれ)

今年は小学校生活、最後の年なので気合を入れていろいろなことに取り組んでいきたいです。

学校の勉強も、家の手伝いも最後まで取り組んで行きたいです。あと、小学校での思い出をいっぱい作って、楽しい1年にしたいです。そして遊ぶ時は遊び、勉強する時は勉強する、きちんとけじめをつけるよう取り組みたいです。



北見地区・三輪

穴田 莉彩さん
(2000年生まれ)

私はヒップホップ、習字、水泳に英語と4つの習い事をしています。

全部、楽しいですが、その中でも今年、特に頑張りたいことは英語です。3年生の時に友だちといっしょに塾の見学会に参加してからずっと続けていて、去年の11月に子供英検の3級を受験しました。筆記と英語での受け答えをする面接もある試験で、合否の発表はまだ先ですが、合格していると思います。

今年の目標は、3級に合格したら飛び級をして、6年生のうちに子供英検の1級をとることです。宿題がない日も、自分で勉強しているので、これからも続けて目標を達成したいです。



端野地区・川向

安藤 康佑さん

(1988年生まれ)

明けましておめでとうございます。
就農して3年目を迎え、まだまだ勉強することがたくさんありますが、昨年結婚し、6月には赤ちゃんも生まれます。家族を持ち夫婦円満でしっかり頑張っていきたいと思っています。

TPP交渉参加など先の見えない農業情勢ですが、畑作りをもっと勉強して、より良いものを生産して消費者に国産の安心・安全でおいしいものを提供して行きたいです。そのためには青年部活動や、普及センターの勉強などにも積極的に参加しながら、自分の糧にして行きたいです。

また、昨年青年部の研修で行った沖縄に今度は新婚旅行で行ってみたいですね。本年も宜しくお願ひします！



訓子府地区・弥生

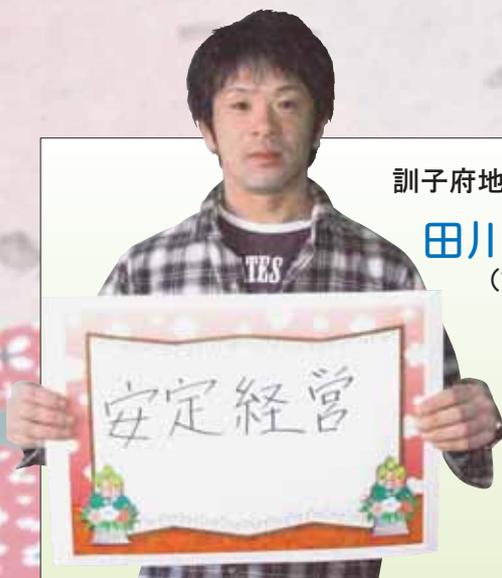
田川 忍さん

(1976年生まれ)

今年は3度目の年男という節目の年に、父から経営委譲される人生の中での転換期を迎えています。農業を

築いてきた祖父や父など先代に負けないよう、しっかりと頑張っていきたいです。

健康面では、経営者としての責任が重くなってきますので、仕事に集中できるようお酒を控え、素晴らしい出来秋を迎えられることを期待し、来年の今頃には、家族で「去年は良い年だった」と笑顔で話しが弾むように頑張りたいと思います。



新春

上を向い 夢と希望



温根湯地区・大和

山梨 一将さん

(1964年生まれ)

東日本大震災の惨状を目の当たりにし、悲しみと怒りに憤りを感じながら、忙しい忙しいと言いつつも平凡な暮らしのありがたさを実感した2011年でしたが、今年は4度目の年男を迎えます。

「やれやれもう一踏ん張りだ」と思う年齢ではありますが、息子はまだ1才4ヶ月！二踏ん張りも三踏ん張りもしなければならず、次の辰年は「還暦か」などと弱音を吐いている暇はありません。

子供の笑顔に励まされながら、初老体鞭打って毎日乳搾りに励み、我が子を育てあげられたらなあと祈りつつ、今年も頑張るぞー！



置戸地区・常盤

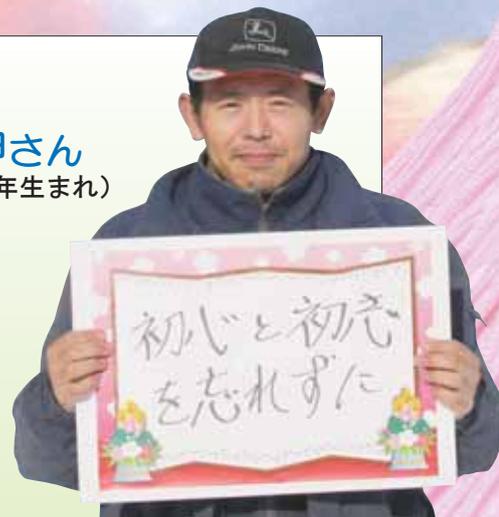
笛田 幸伸さん

(1976年生まれ)

3度目の年男を、この北海道の地で迎えることに、皆様深く感謝しています。

この長く続いている不況の中、酪農もこれからが正念場と思っています。

今年も「初心と初志」を忘れずに頑張っていきたいと思っていますので、これからもご指導のほど宜しくお願い致します。





留辺蘂地区・泉
堂本 鎌造さん
(1964年生まれ)



平成11年に、大阪から北海道に来て12年が過ぎ、改めて1年1年の早さに驚いています。

平成15年に3年間の農業研修を終えて就農し、4畝の農地からスタートしました。徐々に畑も増え、現在は玉葱、小麦、てん菜など11畝を作付けしています。農業は自然と正直に向き合わなければなりません、一昨年的高温多湿、そして昨年の長雨と降雹など自然の脅威を実感しました。

就農当初の夢は、まだまだ先ですが、その夢を決して忘れることなく、この12年間の体験と経験を糧にして、次に迎える12年後には「自分の想いに到達した」と実感できるように、1年1年を大切に積み重ねていきます。

北見地区・小泉
市田 啓一さん
(1964年生まれ)

振り返れば昨年の1年間もあっという間に過ぎ、側で見ている自分の子どもたちよりも、たまに会う周囲の子どもたちの成長で月日が経つ早さを実感しています。

昨年は震災が起きたことや放射能の不安、さらにはTPP問題と様々な出来事がありました。

衣食住すべてにおいて、日本中が「安心・安全」を求めています。

生産者は、今まで以上に安心して安全な野菜を作り、顔が見える農業を意識して行かなければならないと強く感じています。子どもを育てる環境にだって、安心できる場所が1番です。

他の人への思いやりが希薄になっている今だからこそ、私は生産者という立場から「安心・安全」を届けたいと思います。



留辺蘂地区・大富
春木 君枝さん
(1964年生まれ)



農家に嫁いで20年。あっという間の20年でした。これも地域の皆さん、家族の協力があったからと感謝しています。

農繁期の仕事は大変ですが、女性部活動、趣味で始めたレザークラフトなどを楽しみながら、これからも過ごすことが出来たら最高ですね。

今は大変厳しい農業情勢ですが、家族揃って健康で農業を続けていきたいと思っています。そして、秋には、みんなが喜べる実りある年になるよう願っています。

温根湯地区・平里
仁義 直子さん
(1964年生まれ)

「安心して安全な農産物を消費者に届けたい」、そして「自らも地産地消」と思い、1年間頑張ってきました。この想いは今年も変わりません。

昨年は、女性部・地域・家族皆の力を借り、自分を見つめ大きく成長した年でした。今年も多く仲間と共に活動の幅を広げたいです。

健康で笑える実り多い年でありますように。



相内地区・豊田

吉村利光さん

(1952年生まれ)

今年5回目の年男。
屯田兵の4代目として就
農し早43年となります。

明治30年入植、開拓か
ら115年。私の代は高度成
長期、おもしろいほど農
業の様子が変わり、機械
と規模拡大が進み、楽になりましたが、昨年は玉
葱が雹害に遭って全滅、自然相手の厳しさを身
をもって今更ながら感じました。

今や世の中、経済が大きく様変わり、全てにお
いて飽食、物余りの時代となり、幸せそうで寂
しい時代です。

今年から節目の年として、特に健康に留意し無
理せず、くよくよせず(Let it be)で気軽に過
ごして行きたいと思います。



置戸地区・豊住

長田好子さん

(1952年生まれ)

辰年、それは私たち親子3人の干支です。実
母と長女と私、元気に迎えることが出来、とて
も感謝しています。1月に3人で、記念写真を
撮ろうと計画していますが、とても楽しみです。

冬の間はウォーキ
ング、昨年からは
始めた(60の手習い)実
用ボールペン字講座
の練習を頑張ろうと
思っています。とに
かく1年間、家族み
んなが元気に過ごせ
ることを願っていま
す。

出来れば、孫た
ちといっしょに記
念の旅にも行っ
てみたいと思っ
ています。



上常呂地区・広郷

相原義一さん

(1940年生まれ)



皆さん、新年明けま
しておめでとうございます。
思い起こせば12
年前の年男の時、合
併前の旧上常呂農協の
時代で、ライス組合の

立ち上げに役員として走り回っている頃でした。

長い年月を経て、私も72歳を迎える今年、T P
Pの問題など今後の農業に不安も感じる一方で、
希望を持てるよう日々の営農に精進していきたい
と思っています。

個人的には、子どもたちや孫との時間を大切に
しながら、地域の仲間たちといっしょに魚釣りに
出かけ、大好きなお酒もおいしく飲むためにも豊
穡の秋が迎えらることを願い、今年1年、農業
と向き合って行きたいと思っています。

端野地区・緋牛内

中野英子さん

(1952年生まれ)

新年明けましておめでとうございます。
5回目の年女は節目の還暦を迎えます。

結婚する前に同じ職場で仕事をしておりま
した道外出身の同級生が千歳におり、同じ還
暦。旦那さんも定年を迎え北海道を離れるか
もしれないので、今年こそ
は会いに行きたいと思っ
ています。

今一番の楽しみは、北見
市内にいる孫たちが遊びに
来ることです。5
人の孫が来るのを
心待ちにしながら、
今年も農作業中の
ケガも無く健康に
留意しながら、い
い出来秋を迎えたい
ですね。

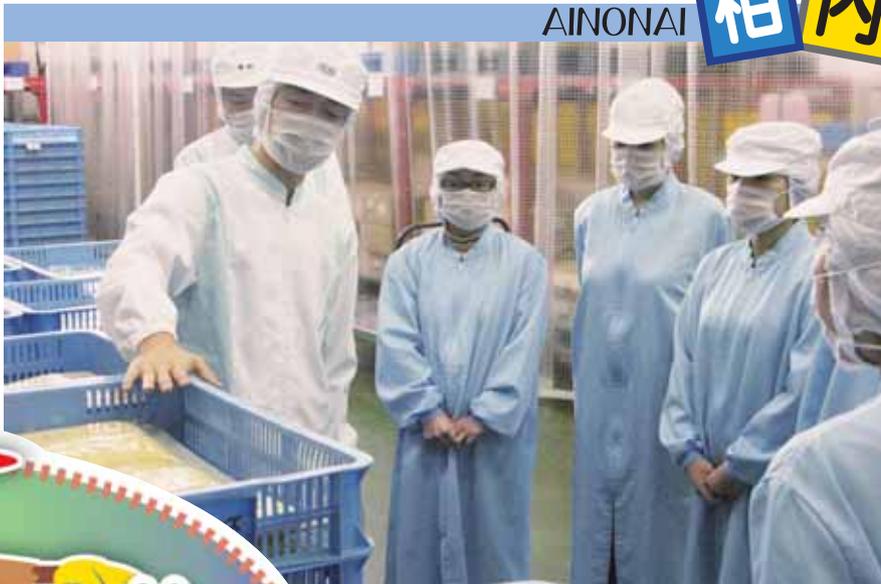


玉葱加工と 製造工程を見学

～グリーンズ北見で研修
会員8名参加～

AINONAI

相内



▲冷蔵庫を見学する参加者のみなさん

フレッシュミズ相内支部（松井美幸支部長）は12月2日、会員間の交流と知識向上を目的にした「冬期研修会」を行い、会員8名が参加しました。市内大正の榎グリーンズ北見で、オニオンスープの製造工程や玉葱のカット・加工作業、冷蔵庫施設などを見学。特に玉葱を細かく刻み込むところでは、「目が痛い」と声を

出しながら、涙を流す会員もいました。普段、見ることもない施設を訪問し、自分たちが作った玉葱が、どの様に加工され、製品化されて行くのかを知ることが出来ました。見学後は懇親会を開き、今年の反省や来年の抱負などを語り合いながら、交流を深めました。



▼船越獣医(右)の説明を聞く部員のみなさん



OKETO

置戸

乳用牛の 健康診断を学ぶ

～現地研修会に
部員9名参加～

青年部置戸支部の畜産部会（小山勇樹部会長）は12月8日、現地研修会を小山牧場で行い、部員9名が参加しました。オホツクNOSAーの船越獣医師を講師に招き、乾乳期のプロファイルテスト（血液検査で健康と栄養のバランスチェック）を行い、実際に乾乳牛を観察しながらボディコンディションスコア（皮下脂肪量計測

による体調診断）やルーメンフィルスコア（腰のくぼみの状態から餌を食べているか）の判定の仕方や管理方法などを学びました。船越獣医師と小山部会長は「他の酪農家から学ぶことも多いので、積極的にプロファイルテストなどの勉強してほしい」と部員に呼び掛けていました。

お菓子づくりで 会員間交流

～支部間交流に
会員17名参加～



▲楽しい会話のなか、順調に進む生地形成

フレッシュミズの温根湯支部（水野和美支部長）と留辺蘂支部（村上郁恵支部長）は12月1日、おんねゆ温泉農業交流センター「花えーる」で支部間交流を行いました。

両支部の会員17名が参加して、「カステラ」と「ドーナツ」の菓子づくりを楽しみました。

菓子づくりは、両支部の会員が協

かし合いながら、レシピに基づいた小麦粉の分量から始まり、甘い香りが漂うカステラとカリカリに揚げあげたドーナツが完成しました。

昼食を挟んだ後、手芸キットの「さくらほりぎりの」の小物づくりにも励みました。目打ちを握り締め、楽しい会話も交えながら会員間の親睦を図っていました。

東西

▼ピザ生地に玉葱やマトなどをトッピングする部員のみなさん



KAMITOKORO



昼食にピザ デザートにアイス

～料理講習会に
部員28名が参加～

女性部上常呂支部（大林明美支部長）は11月28日、29日の2日間、訓子府町農業交流センターで料理講習会を行いました。部員間の親睦と地場農畜産物の消費拡大を目的に開いた講習会には、部員28名が参加し、ピザとアイスクリーム作りに挑戦。

ピザ生地を作ってから、十分発酵させた後、玉葱など各種の具材をトッピングさせ、オーブンで焼き上げ

て完成です。アイスクリームは、牛乳や生クリームなどの主材料をパステライザーとアイスフリーザーの機器を使用して作られました。

正午頃には2品とも完成し、昼食にピザ、デザートにアイスクリームを食べながら、出来栄の評価や明年の活動計画の会話などで盛り上がりました。

高品質生産の 技術・知識を吸収

～30人の女性で
玉葱選果場視察～

KITAMI

北見



▲箱に詰められた玉葱を見つめる参加者のみなさん

北見市玉葱振興会(宮下尚樹会長)は12月5日、日帰りで「女性の玉葱選果場視察」を行いました。女性を対象に玉葱生産に関する情報提供と親睦を目的に行われ、30人が参加しました。東相内の青果物センターとJAえんゆうの玉葱選果場を視察。青果物センターでは、現品審査場を見学。審査員がチェックする審査

基準などを質問し、収穫や選別作業に女性の関わりも深いため、参加者皆さんは真剣に聞き入っていました。JAえんゆうの選果場は昨年完成し、最新鋭の機器が備えられた施設に驚いていました。視察も終え、帰路のバスの中では「来年も他産地に負けない玉葱を作らなければ」という会話も聞こえました。



▼試食品もアツと言う間に無くなった菓子コーナー



KUNNEPPU

訓子府

「おかわり！」と おしるこ大人気

～収穫感謝祭に
250人来場～

女性部訓子府支部(西森美代子支部長)は12月9日、町公民館で「第13回収穫感謝祭」を開き、町内外の消費者約250人が訪れ、女性部手作りのお汁粉や漬物などを味わいました。西森支部長は「1年間、丹精込めて生産した農産物で料理や加工品を作りました。食べて楽しい時間を過ごしてほしい」と挨拶。会場には野

菜の格安販売「ミニコン市」や芋団子のお汁粉、加工品のお菓子6品と「スノーマーチ」を使ったポテトサラダなど7品の料理コーナーが人気を集めていました。玉葱や馬鈴薯、南瓜など10品目の野菜の総重量を当てるクイズコーナーでは、来場者が野菜を手にしながら、投票用紙に予想重量を記入していました。

緊急救命と AED使用学ぶ

～交通安全教室に
部員23名参加～

TANNO **端野**



▲マネキンでAEDの使用方法を実技する部員のみなさん

女性部端野支部で組織している端野町女性ドライバークラブ（関本久美子代表）は12月9日、交通安全教室を行い、部員23名が参加しました。同クラブは、啓発看板や啓発資料の作成などを行っていますが、今回は北見消防署員の今野和弘さんを講師に招き、「緊急救命の方法とAEDの使用方法」を学びました。胸骨圧迫（心臓マッサージ）から

人工呼吸、AEDを使用するまでの説明を受け、2人1組でマネキンを使った実践。30回の胸骨圧迫、2回の人工呼吸を繰り返しながらAEDの準備を行っていきます。「いざ実践」となると、悪戦苦闘する姿も見られましたが、今野さんは「倒れている人を発見したら、落ちていて意識を確認し、119番に連絡を」と呼び掛けていました。

東西

▼「おいしい！」と話しながらアイスを試食する児童



RUBESHIBE **留辺薬**

アイス冷たくて おいしい！

～小学生と保護者に
食育教室～

留辺薬町食育青年部（渡辺琢磨部長）は12月10日、町公民館で「牛乳ができるまでの講習会」を開き、小学生や保護者ら72名が参加。地元の子どもたちに食の大切さを伝え、酪農にもっと興味を持ってもらうことが目的です。同青年部は、デントコーンは種、搾乳や乳牛の出産シーンなどをビデオ収録し、生産から販売までの一連

の流れをまとめたDVDを披露しました。また、参加者は牛乳に砂糖や卵黄などを混ぜてビニール袋に入れ、約20分振ってアイスクリームを作り、試食しました。同町の奥靖子さんは、留辺薬小に通う2人の子供と参加。「牛乳が店頭にならなくなった。アイスはおいしくできず、笑顔で話してくれました。」



青年女性ネットワーク

盟友誓う

新たな食と農の
価値を創造する

全道JA
青年部大会

節目の60年
盟友750人決意新たに

北海道農協青年部協議会は12月7日、8日の2日間、「Exciting Innovation（エキサイティング・イノベーション）」を大会テーマに

第60回全道JA青年部大会と併せて、同協議会の創立60周年記念式典を行いました。会場の札幌市内のホテルには、全道から約750名の盟友が参加し、きたみらい青年部も役員など18人が参加しました。

同協議会の今井貴祐会長は「全道大会は農業の知見を高めるチャンス。チャンスは必ずつかみ、生かして行こう」と呼び掛けました。

青年の主張発表大会では、各地区の代表に選ばれた5名が、農業を通じて得た将来の夢や希望、そして意見などを発表。審査の結果、JAふらの青年部（上川地区）の鳥羽光生



▲記念講演の講師を務めたソフトバンク株の青野史寛人事部長

さんが最優秀賞を受賞。活動実績発表大会では、各地区の代表者6名がそれぞれ青年部の取り組みを発表し、JAけねべつ青年部（根室地区）の中村正博さんが最優秀賞を受賞。

JA全青協の遠藤友彦副会長（JA福島県青年連盟委員長）が東日本大震災をテーマに特別講演。震災時に消防団として復旧作業にあたった当時を振り返り、「数多くの人が亡くなった。その方々のためにも、自分たちは良い作物を作り、出来ることから一歩ずつ進むことが重要」と話していました。

その後、60周年記念式典と祝賀会が行われ、50周年以降の歴代会長に感謝状が贈呈されました。

記念祝賀会でアームレスリング大会、JA青年の歌「君と」北海道大会が行われました。アームレスリン



▲アームレスリング大会で奮闘する木村憲幸さん(左、上常呂支部)

グはJA十勝清水町（十勝地区）の渋谷耕太さん、青年の歌はJA道央青年部（石狩地区）の長島淳さんが優勝。アームレスリングにオホーツク代表として出場した木村憲幸さん（上常呂支部）は健闘しましたが、惜しくも準決勝敗退となりました。

翌日の記念講演では、ソフトバンク株の青野史寛人事部長が「次代を讀む力とリーダーシップ」と題して講演。会社成長の理由などを挙げ、「いつも時代を変えてきたのは若者。農業者皆さんもおいしき、安全・安心のナンバーワンを目指してほしい」と呼び掛けました。

本大会では、TPP交渉参加断固阻止に係る特別決議を採択し、基本農業政策の確立などからなる大会宣言を確認し、2日間の全日程を終了しました。



▲750人の盟友が参加して行われた第60回全道JA青年部大会（札幌市：札幌パークホテル）



▲特別講演の講師を務めたJA全青協の遠藤友彦副会長

青年女性ネットワーク

出来ることから 挑戦しよう！

フレッシュユミズ部員研修会

オホーツクJA女性協議会は12月5日と6日の2日間、網走市内のホテルで「部員研修会」を行いました。

同女性協役員、フレッシュ部員、事務局など149名が参加し、当JAのフレッシュ8支部からは、31人が参加しました。青木部会長（JAオホーツク網走）は、「日頃の疲れを忘れ、充実した2日間になりました」と挨拶し、開会しました。

フレッシュユミズの主張では、JAつべつの阿部ちなみさんが「あっと言う間の7年間」と題して発表。

続いてJA清里町の柳谷亜紀子さんが、野菜の訪問販売を行ったり、自宅の車庫で1日限りの直売所を開いたことなど、自らの夢を追う活動の様子を紹介。「失敗してもいいから経験を積むことが大事」と、出来ることから挑戦することの大切さを伝えました。

研修は、昨年も好評だった健康指導士の石川朋美さんを講師に、「歌謡ピクス」を行いました。誰もが知っている歌謡曲に合わせた動きと、石



▲最終日に行われた「押し絵」を楽しむ参加者のみなさん

川さんのユニークな話し方に参加者からは、楽しそうな笑い声が聞こえていました。

翌日は、こいのぼりと兜、お雛様の2種類の押し絵を作成しました。閉会式では、JA女性の歌を参加者全員で歌い、他JAのフレッシュとも交流が深まった2日間が終了しました。

心も体もリフレッシュ

オホーツクJA女性協議会

オホーツクJA女性協議会は12月6日と7日の2日間、網走市内のホテルでJA女性部正副部长・事務局合同会議（研修会）を行いました。

同協議会の馬淵会長（JAところ）は開会挨拶で、12月1日から開かれた「東北・北海道地区JA女性組織リーダー研修会」に山崎監事（JAきたみらい）と共に出席し、東日本大震災の被災地・山形県の様子を報告しました。「被災は終わっていない。再建に向むけた復興は始まっていないと感じた」と、この場所に居られることの幸せを訴えました。

会議終了後は、気軽に出来て、自分の力で体の疲れを取り、歪みを整える「自己整体体操ルーシーダットン」で体を温め、心も体もリフレッシュされました。

懇親会は、参加JAの特産品が当たるビンゴゲームやカラオケに、単組混合のテーブルで交流を深めました。

翌日は、ホクレン種苗園芸部の有村利治さんが野菜の新品種を説明。厚生連の真中道子さんは、スキンケアセミナーの中で、少し気をつけるだけでぐっと顔が明るく見えるメイク



▲スクincareクリームを手にぬって感触を確かめる役員のみなさん



▲合同会議に出席したJAきたみらい女性部役員のみなさん

方法に、受講者の皆さんからは「ワースト！」「とてもきれい！」などの歓声が上がっていました。



青年女性ネットワーク

◀8,000人収容できる
ナショナルホルスタ
イン会場



酪農大国カナダの

酪農情勢を視察

きたみらい酪農青年部

ロイヤルアグリカルチャー ウインターフェア視察

研修初日は終日、「ロイヤルアグリカルチャーウインターフェア」を視察。アメリカ（マディソン）の世界最大の乳牛ショウ「ワールドデシリ―エキスポ」に並ぶ「屋内酪農業博覧会」とも言われています。

経産・未経産牛のレッド&ホワイト、ブラック&ホワイトショウ以外にも、北米全域から集められた様々な農産物の展示、品評、競売が行われます。家畜オークションでは、一般の方も参加することができ、世界各地から入札者が参加。さらに、馬車パレードやホース

ショウ、馬術競技なども賑やかに行われます。

当日は、ホルスタインショウの最終日で、夕方にはチャンピオン牛のパレードも行われました。未経産の出品牛全頭は体格が良く、綺麗な足。経産牛は後乳房の高さや幅など、日本では見られないスケールの大きな牛が出品されていました。

美しく手入れされた牛たちが、大勢の観客を前にスポットライトを浴びて入場するシーンは、本ロイヤルで得る成績がいかに名譽なものかを物語っていると感じさせられました。グランドチャンピオンが決定されるクライマックスの瞬間、場内のボルテージは最高潮に達し、大きな歓声に包まれていました。なお、グランドチャンピオンには「イーストサイドレウイズデルゴールドミッシー号」が輝きました。

カナダ酪農 クォータ制度導入

翌日からは、カナダのトップクラス（シヨウカウと牧場（スタントンズ」「シレット」「ブロンディン」「コムスター」の4戸）を視察しました。4牧場とも平均個体能力が高く、体型も素晴らしい牛群と、環境管理も徹底されていました。改めて、乳牛改良の大切さを再認識することができました。

カナダの酪農業は、国外からの輸入を制限し、国内需要を賄う生乳生産を基本とした生乳供給管理制度（クォータ制度）の下で成り立ち、生産者は生乳生産量が割り当てられています。この厳格な制度により、カナダの生産者は安定した経営を継続することができています。

また、カナダの酪農産品の輸出品目として、特徴的なものは生体牛、精液、受精卵といった遺伝資源の輸出があります。今回視察した牧場は、

きたみらい酪農青年部は、昨年の11月10日から17日までの7日間、国際的・社会的情勢に対応できる担い手育成などを目的に、部員17名が参加して海外酪農業視察研修を行いましたので報告いたします。

受精卵など遺伝子改良技術の先進的な牧場であり、搾乳業の他に遺伝子（受精卵など輸出）ビジネスに力を注いでいる世界的なトップブリーダでもあります。



▲ブロンディン牧場の牛舎を視察する青年部のみなさんと同牧場を説明してくれたキム夫人(円写真)

青年女性ネットワーク



▲「TPP参加は、基本的に反対」と話すケベック州の現地酪農家(右側の男性はヘイズジェネティクス社のジェミー氏)

研修中に野田総理のTPP交渉への参加表明など、国際競争力への強化が高まる最中でしたが、カナダ国内でも、ハーバー首相がオバマ大統領との会談で、TPP交渉への参加意思を表明したと、地元新聞の一面で大きく報道されていました。

TPP交渉参加 現地酪農家は反対!

研究最終日は、つなぎ牛舎専用の自動搾乳ロボットを導入している「ダウ牧場」を視察。つながれた牛の場所までレールを伝って移動し、乳房を自動認識し、1頭1頭搾乳。1日当たり2〜3回で45頭(最大60頭)の搾乳が可能です。導入費は施設工事費と自動搾乳機

自動機器備え 労働力削減

(1基)で約3千万円。牛が搾乳機に慣れるまでに2週間程度かかりますが、その後は、周りの牛を見て自然になれてくると説明を受けました。ダウ牧場では、自動搾乳機2基と自動給餌機を導入。搾乳作業で6時間/日、給餌作業で約4時間/日程度の労働力削減となっています。

カナダは既に米国とメキシコ間とのNAFTA(自由貿易協定)に参加しており、一部報道では、TPPを懸念する国民の声は少ないと報道されています。しかし、実際に現地の酪農生産者の声を聞くと、「基本的にはTPP参加は反対。抗議する姿勢でいる」と話していました。現在、カナダではクオータ制度による、ある程度安定した経営が行われているものの、TPP交渉の参加表明に伴い、ニュージーランドの様な乳代の安価な国から輸入となれば、カナダ酪農経済が不安定になると心配する酪農家も少なくないと、私たちの質問に答えてくれました。

海外酪農業

視察研修を終えて

本研修は、JAきたみらい青年部と連携し、酪農青年の国際的・社会的情勢変化に順応できる担い手育成事業の一環として実施することを目的に、ヘルパー利用負担軽減などを考慮し、短期間で充実した研修計画を1年間という時間を要して協議してきた経過にあります。

ただ研修に参加するのではなく、目的を持って研修先を選定し、意識を深めることで日本の現状と比較し、今後、個々の経営にどの様に反映させて行くかに主眼をおいて、きたみらい酪農青年が企画立案しました。実施にあたり、JAきたみらいを始め、北見市、訓子府町、置戸町、各地域の酪農振興組織など関係機関皆様の多大なご支援により、酪農先進国の状況を肌で感じる機会を与您いただいたことに深く感謝申し上げます。参加した部員は、この研修でともに過ごした仲間を大切に、得た知識や経験を様々な場面で生かし、酪農振興の発展に寄与できるよう、中核担い手として地域農業を牽引する人材として、多に期待しているところであります。

最後に、ジュネティクス北海道関係者の方々のご多大なるご協力により、事故などなく無事終えることが出来たことに、心から感謝申し上げます。

きたみらい酪農青年部海外酪農業視察研修団 団長 有沢 広宣(上常呂地区)



▲世界に数台しか設置されていないダウ牧場のつなぎ牛舎専用自動搾乳ロボット内の乳牛



海外酪農業視察研修に参加した部員のみなさん

- 前列左から～今野友樹(訓子府)、塩田泰明(訓子府)、渡辺隆裕(訓子府)、小野真広(相内)、安岡祐一(訓子府)、渡辺重明(訓子府)、南祐司(訓子府)、毛房智幸(訓子府)
後列左から～稲垣祐也(訓子府)、山内誠(北見)、中村信一(置戸)、阿部祐一(北見)、有沢広宣(上常呂)、入倉聖樹(北見)、佐藤達典(端野)、村岡俊也(端野)、森岡和弘(訓子府)

男女共同参画と 組織活動活性化を学ぶ

外郭三組織合同視察研修を実施

地域住民に対する

緑化運動の啓発

福岡市植物園

市内中心部の近くに位置する福岡市植物園を訪れました。昭和8年の開園以来、植物の展示及び緑化の普及啓発を行い、地域住民の憩いの場としても親しまれ、楽しみながら学ぶことができる植物園です。

園内には「緑の相談員」が常駐し、植物の育て方などの様々な相談に応じてくれ、その他に展示会や園芸講座、観覧会・体験講座など様々なイベントを通じて、地域住民に対して



▲フレッシュミズから参加した本部役員のみなさん(福岡市植物園)

の緑化への理解を深めています。訪れた時期は、ランやハイビスカス、ブーゲンヴィリアなどが咲き誇り、鑑賞に来た人々の心を癒していました。

男女共同参画の必要性と

地域に根ざした活動

JA福岡中央会

経営局組合員組織部の筒井部長、野口氏、草場氏の3名からそれぞれ男女共同参画の取組み、JAファンづくりに向けた地域密着活動、県青年協・女性協の取組みについて説明を受けました。

福岡県は、全国の中でも男女共同参画が特に進んでいる地域で、県内



▲JA福岡中央会組合員組織部の筒井部長(左)と野口職員(右)

21JAの内、20JAに女性理事が就き、女性正組合員の割合が22%、女性総代の割合が9%と高く、その数字は年々増加傾向にあります。

地域や農業経営の主体的存在として、「女性が積極的にJA運営に関わり、女性の声を反映させることでJA組織の活性化につながる」と、今の時代に必要」と話されました。

地域密着活動は、JAが地域に根

JAきたみらいの第3次地域農業振興方策に掲げている「組織リーダー育成」に向けた取り組みの一環として、青年部・女性部・フレッシュミズ合同の視察研修を12月13日〜15日の3日間行いましたので、その内容をご報告いたします。

ざし、必要不可欠な存在となるために、農業祭や食農教育を始めとした様々な地域イベントは、JAの担当部署のみならず、JA役員、そして多くの組合員が連携し積極的に行う必要があります。その結果として、地域住民の信頼や「食と農」に対する理解を深め、JA組織の活性化につながる」と強調。

また、福岡県内のJA青年組織、女性組織の先進的な活動内容についても説明を受けました。



▲「男女共同参画」についての説明を受ける参加者のみなさん

青年女性ネットワーク

「『経済的に豊であること』『健康であること』の3つが実践できて、初めて感じる」ことが出来る」と話した上で、「そのためには組合員一人一人が協同組合運動に積極的に参加・参画し多くのことを学ぶ必要がある。」と話されました。

また、営農活動・生活活動において中心になるのは女性であるという信念のもと、男女共同参画にも積極的に、19名の理



▲JAIにじの概要を説明する川原文次専務



JAIにじ

協同組合運動への参加・参画を

昨年引き続き訪れたJAIにじでは、川原専務から協同組合運動について、青年部と女性部両組織の役割について説明を受けました。

同JAIの活動方針として「しあわせづくり運動を掲げています。その基本的実践として『経済的に豊であること』『健康であること』の3つが実践できて、初めて感じる」ことが出来る」と話した上で、「そのためには組合員一人一人が協同組合運動に積極的に参加・参画し多くのことを学ぶ必要がある。」と話されました。

事のうち、1名が青年部理事、3名が女性理事で構成され、総代会の議長2名のうち1名は女性が就いています。

また、総代会における発言者の約8割が女性であるなど、女性が積極的にJAI運営に参画しています。

続いて、井上農業振興課長、樋口生活課長から青年部と女性部活動について説明を受けました。

両組織とも、部員の減少という悩みを抱えています。女性部は目的別・世代別など多くのグループ単位の活動を行っており、文化協力員制度により、女性部員が各グループへの指導を行い、活発な活動を展開しています。

一方、青年部も食育活動や地域貢献活動を中心に、地域とのつながりを大切に、地域に根ざした活動を行っています。



▲北海道産玉葱の販売コーナーを見る参加者のみなさん(唐津うまかもん市場)

JAIから

地産地消地域に定着

【唐津うまかもん市場】佐賀県唐津市の「唐津うまかもん市場」は年間売り上げ10億2300万円、年間来客数100万人を誇る直売所で、昨年の平成22年4月にオープンしました。

地場産物を地元の人に届けたいという思いから、約650人の生産者が登録しており、年間を通じて豊富な農畜産物が取り揃えられ、連日多くの消費者が訪れて賑わっています。

視察研修を終えて

3日間の研修を通じて、普段、活動を共にする機会が少ない当JAIの青年部、女性部、フレッシュミズは、組織間及び役員間の交流を図ることができたと考えます。

また、本研修で学んだことを各組織活動に積極的に生かすことにより、組織活動の活性化やJAI運動への積極的な参加・参画、さらには地域社会活動貢献へとつながるものと思います。

JAIには今後も、このような有意義な研修を継続していただきたいと節に願います。

団長 佐藤正人(北見支部)



三組織合同視察研修に参加したみなさん

- 前列左から～青年部:岡崎和久理事(訓)、佐藤正人理事(北)、女性部:荒えみ子副部長(留)、上原由紀子部長(訓)、西森美代子理事(訓)、黒須倫子理事(北)
- 中列左から～フレッシュ:吉田由利香理事(上)、長山寿恵副会長(上)、松井美幸理事(相)、村上郁惠理事(留) 女性部:関本久美子理事(端)
- 後列左から～青年部:森谷祐樹理事(相)、佐藤猛理事(置)、フレッシュ:黒須美保監事(北) 女性部:斉藤のり子理事(置)



▲スノーマーチの品質などを仲買人に説明する南会長(左)と武藤理事(中央)

23年産

期待のバレイシヨ新品种

「スノーマーチ」発売開始

12月1日

北見市場に5ト出荷

きたみらい管内で約10畝栽培されたバレイシヨ新品种「スノーマーチ」の今年度出荷が始まりました。
12月1日には北見地方卸売市場で初取引が行われ、品質をPRしようとして生産者などが参加してセシモニー

を開きました。「スノーマーチ」は2008年から訓子府町で栽培され、本格的な出荷は昨年度産に続き2年目となります。

JAきたみらいは、同日までに同市場へ10^キケース入りで5トを出荷。初出荷されたスノーマーチは、市内量販店4店舗で販売され、来年2月頃まで取引されます。

セシモニーには、きたみらい馬鈴薯振興会の役員とJA職員など約30人が参加。同振興会の南博敏会長が「収穫期の長雨などの影響で小玉傾向だが、甘味もあり品質も上々。市場や仲買人皆さんの力を借りて販売促進につなげたい」と市場関係者に呼び掛けました。

冷え込みが厳しかった当日は、「スノーマーチ」1個が丸ごと入った豚汁が仲買人皆さんに振る舞い、味をアピールしました。「スノーマーチ」は主力品種の「男しゃく」と同様、秋の収穫後熟成させると甘味が一段

と増すことから、JAでは収穫後に冷蔵貯蔵に移す時期を1ヶ月早めたことで、今年産の初出荷を前年より1ヶ月早め、購買力が高まる時期に間に合わせました。

市内スーパーで「スノーマーチ食べて」とPR

JAは、きたみらい馬鈴薯振興会と連携して12月4日、北見市内のスーパー4店舗で「スノーマーチ」のPR販売を行い、「おいしい」という好反応が相次ぎました。

1日の初出荷されたのを機に、地元消費者に味と調理法を広く知ってもらうことを目的に、同振興会役員やJA職員など20人がPR活動を行いました。

市内のコープさつぽろ三輪店では、500^ギ入り128^円、700^ギ入り158^円の袋詰めが山積みされました。法被姿の振興会役員の皆さんは、同店に訪れたお客さんに「煮崩



▲来店客にスノーマーチをPRする北口理事(左)



れしにくく、肉ジャガに最高です」と呼び掛け、試食用のサラダとパンフレットも配りました。
同市とん田東町の市原さんは「サラダは甘味があつておいしかった」と話しながら、2袋を買い求めました。同店も「お客さんの反応は良い。アピールして販売に努めたい」と、新品种「スノーマーチ」に期待を寄せていました。

第15回全道共進会

王者の栄誉たたえる

グランドチャンピオン祝賀会

第15回北海道総合畜産共進会が9月に胆振管内安平町で開催され、乳用牛部門でグランドチャンピオンに輝いた「RCP チャンピオン」Jシドニー「ET」の受賞祝賀会が北見市内のホテルで行われ、酪農家やJA役員など関係者133人が出席して、栄誉を称えました。

発起人のJAきたみらいの坂下専務は「2003年2月に当JAが誕生して以来、初の名誉ある賞。あらためて我がJA酪農家の資質の高さを誇れる」と挨拶。西川組合長も「全道乳用牛83万頭の頂点に立ったことは酪農発展に大きく寄与する」とお祝いの言葉を述べました。

受賞牛を出品した置戸町のローヤルチャンピオンプロジェクト代表の小山勇樹さんは「大勢の方々の協力と支えがあつての受賞」とお礼を述べ、「日がたつにつれ、すごいことをしたと実感している。今後も酪農経営や乳牛改良に情熱を持って進みたい」と決意を話しました。



▲133名が出席して開かれた祝賀会



◀左から、ローヤルチャンピオンプロジェクトの洪佐法幸さん、深田英明さん、小山勇樹さん

震災被災地宮城県丸森町に 牧草ロール40個支援

JAときたみらい酪農振興協議会

JAはきたみらい酪農振興協議会と連携して12月9日、東日本大震災で被災し、北見市端野町の姉妹都市で当JAとも交流がある宮城県丸森町の丸森町に酪農振興組合に約350キの牧草ロール40個を送りました。

同町では、福島原発事故の影響で放牧地から国の暫定基準を上回る放射能セシウムが検出され、飼料不足に悩む酪農家を支援しています。宮城県は、乳用牛や繁殖牛に自給飼料を与えたり、放牧することを自粛するよう要請。7月の最終検査で自粛要請が解除されましたが、1番草の収穫ができなかったため、酪農家は飼料確保ができない状況にありました。

当JAと同協議会は、この様な状況に苦しむ被災地酪農家を支援しようと決定。置戸や訓子府、北見の会員に協力を呼び掛け、8戸の会員から牧草ロール40個が集まりました。当日は、酪農家から集まった直径1・7メートルのロールを大型トレーラー2台に積み込みました。ロールは釧路港からフェリーで仙台港へと運ばれ、15日に丸森町に到着しました。同協議会の越智孝会長は「同じ酪農家の仲間として、少しでも役に立ちたい」と話しながら、トレーラーを見送りました。



▲大型トレーラーに積み込まれた牧草ロールとメッセージボードを持つ越智会長(右)など関係者

北見地区消防訓子府支署に

最新鋭救急車寄贈

共済連北海道とJAきたみらい

JA共済連北海道本部は12月16日、北見地区消防組合消防署訓子府支署に救急車1台を寄贈しました。

同支署前で受納式が行われ、共済連北海道北見支所の工藤易支所長から救急車寄贈にあたっての経過を報告しました。

JAきたみらいの西川孝範組合長は「農業関係者も日常生活だけでなく農作業での交通事故防止に高い関

心を持っている。地域住民が安心して

きる救急活動に役立てほしい」と、

菊池一春訓子府町長に目録とマスコットキーを手渡しました。

菊池町長は「一刻を争う救命活動

が課題となっており、寄贈により緊

急時の対策を強化できる」と、さらに

「安全は守れるけど、安心の拠り所

となるように、町民のために大事に

使っていきたい」と謝辞の言葉を述



▲西川組合長から菊池町長(右)に手渡されたマスコットキー



▲北見地区消防訓子府支署に寄贈された最新鋭の救急車

食育パンフ2万冊作成

地産地消に一役…

北見地区

農業振興連絡協議会

北見、訓子府、置戸のオホーツク管内3市町とオホーツクNOSA、網走農業改良普及センター、JAきたみらいでつくる北見地区農業振興連絡協議会は、地産地消を進め北見地方の農業への関心を高めてもらうことを目的に、食農教育パンフレット2万冊作成しました。

JAきたみらいは2月、3市町の学校給食に活用してもらおうと地元産玉葱と馬鈴薯を贈る計画をしています。その時に、給食センターを

利用している子どもたちの保護者に、

同パンフレットも配布する予定です。

パンフレットは「みんなのまちの

JAきたみらい」の表題で、B5版、

オールカラー20ページ。主要作物の

玉葱、馬鈴薯、小麦、てん菜、白花

豆、牛乳の6品目の農畜産物を品種

特徴、出荷時期、さらに玉葱と馬鈴

薯は、都府県への出荷割合を円グラ

フで紹介。6品目とも植付けから収

穫までの生産過程を写真とコメント

で構成。最終ページは、人参やメロ

ンなどの野菜の品目と加工食品5点、さらに玉葱と馬鈴薯の出荷ベスト5の都府県を棒グラフで紹介しています。

当JAの西川組合長は「パンフレ

ットは、男の子と女の子がきたみら

い農業を見て歩きしているイメージ

をイラスト入りで作られている」と

話し、「子どもたちも、きくと親近感

を持って読んでもらえる。そして、

北見地方で生産されている農畜産物

の『ものしり博士』になってくれれば

最高」と期待を寄せています。

なお、昨年10月に「Greenベ

ジフル教室」を行った東京都内の2

つの小学校、さらに大阪市教育委員

会から「てん菜糖の授業に役立てた

い」という要請などから、各校に50部ずつ贈呈しています。



▲親と子がいっしょに楽しめる食育パンフレット

「男の料理教室」

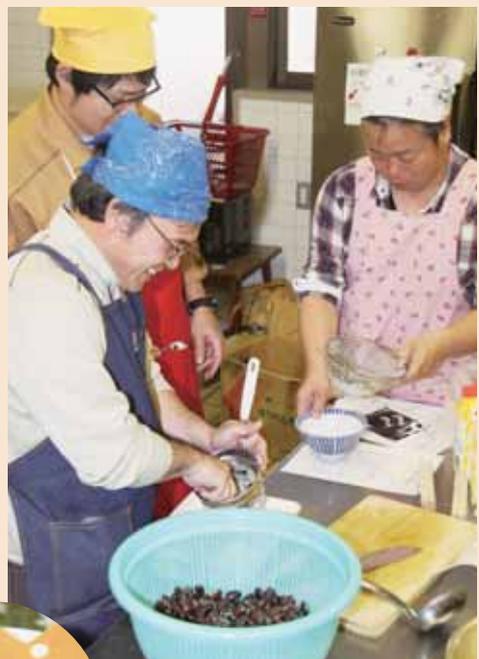
豆料理3品に挑戦

きたみらい豆類振興会

きたみらい豆類振興会は12月15日、JAセンター事務所調理実習室で「男の料理教室」を行い、役員と事務局10名が参加しました。役員自らが豆料理に取り組み、消費拡大に結びつけることを目的に平成20年から始め、今回で4回目となります。

作った料理は「白花豆・紫花豆とゴマの茶巾まんじゅう」「トラ豆・

大福のミックスポターージュ」「大福とスノーマーチの天ぷら」の3品。レシピの分量や作り方などを一ひとつ確認した後、普段、余り使うことがない包丁や調理用具を巧みに使いこなしていました。もうちょっと塩を入れようか」など味加減の会話も弾むなか、出来上がった料理を試食し「ポターージュ、豆の香りが生



▲煮詰めた紫花豆の裏ごし作業に励む役員



▲白花豆・紫花豆とゴマの茶巾まんじゅう



▲トラ豆と大福豆のミックスポターージュ



▲大福豆とスノーマーチの天ぷら



「スノーマーチ」現地収録

魅力発信：1/21(土)放映

JAグループ北海道がスポンサーとなつて全道に放映されているTV番組、「森崎博之の『あぐり王国北海道』(HBCテレビ)」の収録が12月10日、当JAの訓子府地区馬鈴薯選果施設と訓子府町の公民館などで行われました。

同番組は、北海道の生産地を訪問し、食と農の体験を通して北海道のおいしさ、素晴らしさを再発見し、

北海道の大地と食卓をつなぐことを目的にしているものです。

当JA管内における同番組の現地収録は5回目で、訓子府町は2008年の玉葱に続くものです。

当日は、おなじみのチームナックス・リーダーの森崎博之さん、オクラホマの藤尾仁志さん、佐々木祐花アナウンサー、あぐりっこ隊の子どもたちが訪れました。

一行は、選果施設でスノーマーチの選別を見学した後、町公民館でスノーマーチを使った「いもピザ」「シヤキシヤキサラダ」「いもだんごのすいとん汁」の料理を試食。

収録に参加したきたみらい馬鈴薯振興会の南博敏会長は「スノーマーチをあぐり王国で取り上げていただき光栄。これを機に地元を始め、全道、全国に発信したい」と特徴など

のメッセージを送っていました。なお、年明けの1月21日(土)午後5時から同テレビ局で放映されます。



▲馬鈴薯選果施設で行われたTV収録

第11回

理事会報告

日時 平成23年12月26日(月)

12月26日、午前10時より第11回定例理事会が開催され、報告事項20件、議決事項9件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①内部監査(全部門無通告監査)報告について
- ②組合員状況報告について
- ③財務状況報告について
- ④訴訟案件について
- ⑤個人連帯保証に係る監督指針改定に伴う検討経過について
- ⑥再建対策農家の収支見込と精算対応(予定)について
- ⑦平成23年度ジャガイモシストセンチュウ対策の取組みについて
- ⑧平成23年産馬鈴薯前進栽培男爵取扱要領について
- ⑨平成22年産もち米本精算について
- ⑩平成22年産大豆本精算について
- ⑪平成22年産小麦本精算について
- ⑫平成23年産もち米の精算について
- ⑬平成23年産小麦追加精算について
- ⑭平成23年産てん菜の生産実績について
- ⑮平成23年産麦乾燥料金について
- ⑯平成22年産澁原馬鈴薯の精算について
- ⑰平成23年産野菜振興対策の実績について
- ⑱平成23年度南瓜農薬残留検査結果及び損害対策費の支給について
- ⑲生乳生産状況及び個体取引価格状況について
- ⑳平成24年度畑作物作付指標面積の設定について
- ㉑役員選任に係る地区推薦委員の変更について

【議決事項】

- ①出資増減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の処分について
- ③諸規程類の制定及び改正について
- ④平成24年度冬期地区別懇談会の日程(案)について
- ⑤第9回通常総代会の日程(案)について
- ⑥役員の数欠員による対応について
- ⑦農業経営緊急支援資金の北海道信連からの借入れについて
- ⑧馬鈴薯選果施設の工事に係る業者選定について
- ⑨平成24年度事業計画基本方針(案)について

年末年始の業務日程

月日	曜日	センター 地区事務所	金融窓口	A T M	給油所
12月29日	木	午前中業務	平常	平常	平常
30日	金	休業	平常	平常	平常
31日	土	休業	休業	休業	午前中営業
1月1日	日	休業	休業	休業	休業
2日	月	休業	休業	休業	休業
3日	火	休業	休業	休業	休業
4日	水	休業	平常	平常	営業 9:00~15:00
5日	木	休業	平常	平常	平常
6日	金	午前中業務	平常	平常	平常

食と農の「今」と「明日」を考え、
今年も役立つ情報を届けます



- 毎日発行、新聞店から配達します(日曜日は休刊)
- 新聞代金1カ月 2,450円(税込み)

お申し込みは
お近くの地区事務所まで

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
www.nougyou-shimbun.ne.jp

1 年過ぎるのが本当に早く感じます。震災や原発、政治にも期待できない1年でした。自然を相手に仕事をすると、改めて謙虚な気持ちで自然と向き合っていくことと思います。
(訓子府地区・匿名希望)

人は自然を壊せても、自然の力は妨げません。その場その場をどの様に対応して行くかだと思います。

い つも地元の知人が載っていないかを先に見る私。カラー写真がそれぞれにたくさん紹介され、見やすい広報誌だと思います。
(置戸地区・匿名希望)

ありがとうございます。読者の皆さんは先に写真を見て、何かを感じれば本文を読まれると思います。そのためにも、いかに良い写真を撮るかがポイントだと思います。

外 仕事が終わりに、家にいる様になって1ヶ月、我が家のヘルスメーター、毎日数字が多くなるのです。これって壊れているのでしょうか。
(温根湯地区・大関 博子さん)

なんと応えれば良いのでしょうか？ 冬期間、のんびり出来るのも極わずかですので、エネルギーを蓄えておきましょう。



JAクイズの応募に添えて寄せられた感想などをご紹介させていただきます。

12月号クイズの当選者

12月号のまちがいさがしの答えは「1. 2. 8. 10. 11」でした。正解者48名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの山本常務にお願いしました。

- () 内は支所名
- ・岩橋 椎奈さん(温根湯)・浅川とも子さん(訓子府)
 - ・坂下 恭梧さん(留辺蘂)・森谷 英羽さん(相内)
 - ・結城 洋子さん(置戸)・吉田優妃奈さん(上常呂)
 - ・高谷チヤ子さん(訓子府)・小野かれんさん(北見)
 - ・柴田 保子さん(訓子府)・武田 智子さん(端野)

以上の方々には、こだわり豆腐屋さん「豆ぶく」のオリジナル詰め合わせをプレゼントします。

訂正とお詫び

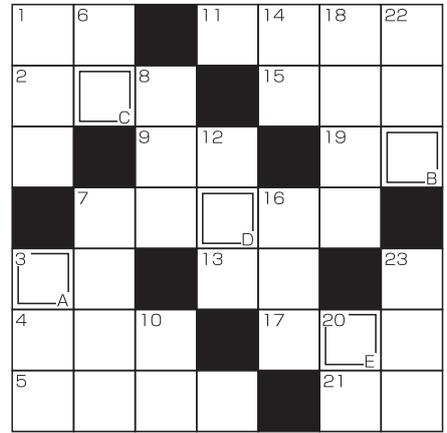
12月号の「おひさまサラダ」で、下記の通り誤りがありましたので、訂正のうえ深くお詫び申し上げます。

■訂正箇所■

- 2ページ 表紙家族紹介で
お母さんの沙織さん⇒香織さんに訂正
—広報編集委員会—

【応募方法】
答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えと広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXで応募下さい。
抽選で30名の方に、(株)清月のきたみスイーツ「白花粉子(6個入り)」をプレゼントします。

クロスワードパズル



二重マスの文字をA～Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

●タテのカギ

- ① マガモを改良した家畜
- ③ 牛や馬に食べさせます
- ⑥ 派手の反対語
- ⑦ 濡れた手を拭いたり汗をぬぐったり
- ⑧ 寒い日はこれから出るのがつらい
- ⑩ 生物や化学を学びます
- ⑫ 「ABC」ではなく「abc」の方
- ⑭ 液体をこして固体と分けま
- ⑯ 風邪の予防にガラガラガラ
- ⑰ 成人式で多くの女性が着ま
- ⑱ 三人寄れば文殊の——
- ⑳ 元旦に——状が届いた
- ㉑ 職場は主にこれをする場所です

●ヨコのかぎ

- ① 舌で感じ取ります
- ② 邪馬台国を治めた女王
- ③ ——の入りは例年1月5～6日ごろ
- ④ 船が停泊するときを下ろします
- ⑤ 世界で一番小さな国
- ⑦ 元旦の神社や寺が混雑する理由
- ⑨ 空に揚げて遊びます
- ⑪ パリーが乗って来ました
- ⑬ 手前みそと似た意味の——自賛
- ⑮ せき止めに良いといわれるよい香りの果物
- ⑰ 赤くて甘酸っぱい果物
- ⑲ 姓氏の一つ 馬子や入鹿が有名
- ㉑ 平成24年は辰(たつ)です

編集後記

●組合員の皆さん、そして家族の皆さん、新年明けましておめでとございます。さて、去年は、自然の猛威を知らされた1年であったと思います。その中でも3月11日の「東日本大震災」は、決して忘れることは出来ないと考えます。被災地では、復興再建に向けたいろいろな取り組みが行われています。

●特に被災地の地域住民の皆さんに、元氣と笑顔を取り戻してもらおうと「コンサート」や「スポーツイベント」など様々なボランティア活動が行われています。その活動で、必ず歌われているのが、故・坂本九さんが歌っていた「上を向いて歩こう」です。

●今回の新春特集で紹介した「年男・年女」16名の皆さんも取材時に、被災者皆さんが一日でも早く立ち上がることを願っていました。そんな事から、16名の皆さんの目標実現と、16名の皆さんから被災地へのメッセージとして、新春特集のタイトルを「上を向いて歩こう！夢と希望を抱いて」と題しました。(堀 仁志)



日本の農業、農村を崩壊させるTPP交渉参加は、みんなで阻止しましょう！

(北見地区・田中 仁美さん)

も うわすかで、今年も終りです。皆様も風邪を引かない様に、24年も良い年であります様に！農業もTPP問題などと大変な年になると思いますが、みんなで頑張ります！北海道農業を守りましょう！

編集委員一同、ご期待に沿うよう頑張ります。

今 年も残り少なくなりました。皆様1年間、本当にご苦労様でした。来年も「おひさまサラダ」を楽しみに待っています。

(上常呂地区・西東 スエさん)

その通りだと思います。JAもいろいろな機会を通じて、食農教育に取り組んでいます。

(訓子府地区・洞 善子さん)

毎 週土曜日、午後5時の「あぐり王国北海道」良く観ます。農作物がどの様に成長し食べるのか、今の子どもたちに伝えるためにも大切な番組だと思います。

発行

きたみらい農業協同組合

F090-0818

北海道北見市中ノ島町丁目1番8号

TEL0157-82-8777(代)

責任者/西川孝範

編集者/宮農振興部企画振興グループ

表紙撮影にあたって

24年の新年号は、早くから石北峠の「日の出」撮影に再チャレンジし、飾ろうと考えていました。12月に入ってから毎日の様に、ネットで石北峠カメラと同峠の天気予報をチェックし、「2~3回は通うぞ!」と覚悟していました。

しかし、一向に「晴れ」の予報が出ず、原稿締切日はどんどんと迫って来るばかり。発行日に間に合わせるためにも、結局「断念」せざるを得ない残念な結果となりました。「それじゃ」と気持ちを切り替え、JAセンター事務所の屋上、北見市内のビル屋上、そして事務所前と3回チャレンジし、自分なりに「日の出がJA事務所を優しく包んでいる」と感じた1枚を表紙に飾らせていただきました。